

【2020 年度/専門科目領域/専門科目群/理学療法学科/旧カリキュラム】

科目名	ナンバリング	区分 (必修・選択)	単位数	履修年次	開講学期等
理学療法診断学		必修	2	2	前期
担当教員	研究室	電子メール ID	オフィスアワー		
坂本 祐太	D318	y.sakamoto	月曜日 10:40~12:10		
授業の目的・概要	臨床場面において適切な検査・測定を実施し、機能障害の有無や程度を明らかにする技術が必須となる。理学療法診断学では、必要とされる検査・測定法を学び、適切に実践できる知識を習得することを目的とし、一部の実技を経験する。				
学習上の助言	この授業では、解剖学、生理学、運動学で学んだ基礎医学分野の知識が必要となるので、復習しておくことが望ましい。				
教科書	理学療法評価学 改訂第6版/著:松澤 正、江口勝彦/金原出版株式会社 ベッドサイドの神経の診かた/著:田崎義昭、斉藤佳雄/南山堂 図解 理学療法検査・測定ガイド/編:奈良勲、内山靖/文光堂 上記、3冊を使用する。				
参考書	特になし				
学生が達成すべき行動目標				関連卒業認定・学位授与方針	
①	問診を行うことができる。	PT (1)、(2)、(3)、(5)			
②	バイタルサインの計測を行うことができる。	PT (1)、(2)、(3)、(5)			
③	感覚検査を行うことができる。	PT (1)、(2)、(3)、(5)			
④	反射検査を行うことができる。	PT (1)、(2)、(3)、(5)			
⑤	運動麻痺の検査を行うことができる。	PT (1)、(2)、(3)、(5)			
⑥	協調性検査、脳神経検査を行うことができる。	PT (1)、(2)、(3)、(5)			
授 業 計 画					
回	学習内容等	授業方法	学習課題・学習時間 (時間)		
1	オリエンテーション。理学療法における診断学の意味を学習する。 フィールドバック:課題返却で実施 意見交換の機会:締め切りまでメールで対応	印刷教材等での授業	課題①検査測定の意義	4	
2	バイタルサイン (総論、意識) について学習する。 フィールドバック:課題返却で実施 意見交換の機会:締め切りまでメールで対応	印刷教材等での授業	課題②バイタルサイン概要と意識	4	
3	バイタルサイン (血圧、脈拍) について学習する。 フィールドバック:課題返却で実施 意見交換の機会:締め切りまでメールで対応	印刷教材等での授業	課題③バイタルサイン脈拍と血圧	4	
4	バイタルサイン (呼吸・酸素飽和度) について学習する。 フィールドバック:課題返却で実施 意見交換の機会:締め切りまでメールで対応	印刷教材等での授業	課題④バイタルサイン呼吸と酸素飽和度	4	
5	問診および一般評価事項について学習する。 フィールドバック:課題返却で実施 意見交換の機会:締め切りまでメールで対応	印刷教材等での授業	課題⑤問診と一般評価	4	
6	感覚検査について学習する。 フィールドバック:課題返却で実施 意見交換の機会:締め切りまでメールで対応	印刷教材等での授業	課題⑥感覚検査について	4	
7	痛みの評価方法について学習する。 フィールドバック:課題返却で実施 意見交換の機会:締め切りまでメールで対応	印刷教材等での授業	課題⑦痛みの検査、測定	4	
8	反射検査について学習する。 フィールドバック:授業時間内に実施 意見交換の機会:授業時間内に実施	同時双方向型授業	理学療法評価学改訂第6版 p131-144 を読んで理解する。	4	
9	運動麻痺の検査について学習する。 フィールドバック:授業時間内に実施 意見交換の機会:授業時間内に実施	同時双方向型授業	理学療法評価学改訂第6版 p259-287 を読んで理解する。	4	
10	協調性検査について学習する。 フィールドバック:授業時間内に実施 意見交換の機会:授業時間内に実施	同時双方向型授業	理学療法評価学改訂第6版 p251-258 を読んで理解する。	4	

【2020 年度/専門科目領域/専門科目群/理学療法学科/旧カリキュラム】

11	脳神経検査について学習する。 フィールドバック：授業時間内に実施 意見交換の機会：授業時間内に実施	同時双方向型授業	理学療法評価学改訂第 6 版 p288-298 を読んで理解する。	4
12	検査・測定の意義・評価について講義する フィールドバック：授業時間内に実施 意見交換の機会：授業時間内に実施	同時双方向型授業	理学療法評価学改訂第 6 版 p13- 17、27-32、39-52、124-144、 259-287 を理解する。	4
13	問診・バイタルサイン測定	講義・実技	理学療法評価学改訂第 6 版 p27- 32, p39-52 を読んで理解する。	4
14	感覚・反射・脳神経検査	講義・実技	理学療法評価学改訂第 6 版 p117- 130, p131-144, p288-298 を読んで理解する。	4
15	運動麻痺・協調性検査・	講義・実技	理学療法評価学改訂第 6 版 p259- 287, p251-258 を読んで理解する。	4
試	定期試験を行う			

達成度評価

総合評価割合 (%)		試験	レポート	成果発表	ポートフォリオ	その他	合計
		40	45	0	0	15	100
総合力指標	知識・技術力	40	25	0	0	10	75
	思考・推論・創造する力	0	10	0	0	0	10
	協調性・リーダーシップ	0	0	0	0	0	0
	発表・表現伝達する力	0	10	0	0	0	10
	コミュニケーション力	0	0	0	0	0	0
	取組みの姿勢・意欲	0	0	0	0	5	5
	問題を発見・解決する力	0	0	0	0	0	0

評価のポイント

評価方法	行動目標		評価の実施方法と注意点	フィードバックの方法
	①	②		
試験	①	✓	筆記試験を学期末に行う。試験は教科書ならびに授業内に講義した範囲から出題する（国家試験様式）。	終了後、解答を掲示し、確認に来た学生には、答案の解説を行う。
	②	✓		
	③	✓		
	④	✓		
	⑤	✓		
	⑥	✓		
レポート	①	✓	印刷教材等での授業で提出したレポート（1～2 回）および課題報告（3～7 回）を成績に含める。採点基準は授業開始時提示する。レポートの成績は、レポートと課題報告の比率を 2 対 1 とする。	提出した課題の採点、採点理由を個別に返却する。また、模範解答などの解説を全体に提示する。
	②	✓		
	③	✓		
	④			
	⑤			
	⑥			
成果発表	①			
	②			
	③			
	④			
	⑤			
	⑥			
ポートフォリオ	①			
	②			
	③			
	④			
	⑤			
	⑥			
その他	①		8～12 回の同時双方向型授業では、授業内で課題を提示し回答する。この 5 講義での提出課題を採点し、成績に反映する。	模範解答などの解説を全体に提示する。確認に来た学生には、解説を行う。
	②			
	③			
	④	✓		
	⑤	✓		
	⑥	✓		

備 考

担当教員：◎坂本 祐太

**教員の実務経験：**理学療法士（二次救急の急性期病床を持つ地域中核病院にて、整形外科疾患や内部疾患を中心に常勤として7年の勤務経験）

**実践的授業の内容：**臨床現場で使用される検査、測定方法について、基礎医学の知識と検査、測定方法の関連を踏まえて講義する。臨床での使用場面に基づいた工夫なども加え、臨床的視点についても指導する。遠隔授業においては、検査、測定の実測課題および検査、測定に対する理解をレポートで提出させ確認する。実技は総集して行い、一連の流れを確認する。

**感染対策：**大学が公表している感染対策および教員が示す授業方法を厳守すること。問題がある場合は面接授業の参加は認めない。

**遠隔授業：**Teams などを使った同時双方型授業を行う。授業時は通信容量が無制限のインターネット回線を強く推奨する。

今後のコロナウイルス感染症の状況など社会情勢によって再度シラパスの変更がある可能性があります。